



GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT

目次

1. GEKIIKEとは
2. 日本の観劇人口は約1割
3. 高齢化による観劇人口の減少
4. 演劇を観たことがない理由とは
5. 地方公演の活性化を目指す
6. チーム概要
7. 募集要項（全チーム共通）
8. 活動条件面（全チーム共通）
9. 応募方法・概要
10. GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT プレビュー公演
11. 製作・スタッフ

企画・製作 スタービートエンターテイメント合同会社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-5-16 渋谷三丁目スクエアビル2階

TEL 03-6868-4762 FAX 03-6868-3966 MAIL info@starbeat.jp

GEKIIKEとは



スタービートエンターテイメント合同会社プロデュースの演劇集団。2010年9月旗揚げ。当時事務所が池袋にあったことから、劇団イケ袋という名前で活動を開始。2011年にGEKIIKEへ改名。

年1〜2回上演する「本公演」を主な活動の基盤とし、朗読劇やイベント、ファンと行く一泊二日のバスツアー等も開催。

演出 樋口夢祈、脚本 木村純子のタッグは第2回本公演から変わらずに来ている。

2018年1月の本公演第9回「漆黑ノ戦花」では、新宿村LIVE全18公演全て完売、3700席の座席数に対し6700枚もの申込みが殺到。千穂楽には10枚の当日券に100人近くのお客様が並び、劇場史上最大の行列を作った。

2019年には「日本初の特撮ヒーロー」である「月光仮面」の舞台化を実施。製作発表をTOKYO COMICONで行い、ネットニュースから新聞社まで様々な媒体に渡り取り上げられる。

2020年に10周年を迎え、コロナ禍でありながら東京・大阪・福岡のツアー公演を実施。無事に全公演を終えた。

GEKIIKEのメンバーは、スタービートエンターテイメント所属の俳優のみで構成されていたが、2021年に同社マネージメント部門解散に伴いGEKIIKEも活動休止に。

本企画（GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT）から、スタービート所属俳優のみという縛りをなくし、フリーの役者から他社事務所所属の役者まで幅広くメンバーを募集する。

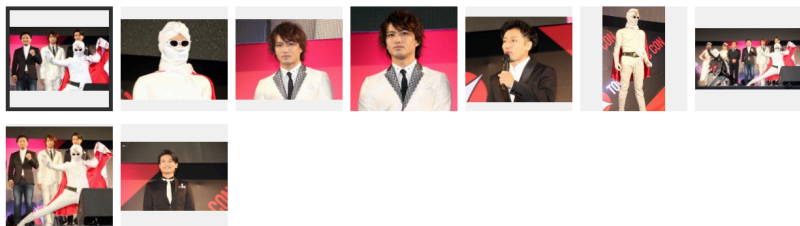
GEKIIKEとは

月光仮面の舞台化・製作発表の様子 (幕張メッセ TOKYO COMICON)

[ホーム](#) > [芸能](#) > 『月光仮面』舞台化決定で来年7月から上演 オリジナルキャラ「新月仮面」も登場 > [画像・写真詳細](#)



『月光仮面』舞台化決定 発表会に出席した(左から)樋口夢祈、鷺尾修斗、伊阪達也 (C)ORICON News inc. (1/9枚)

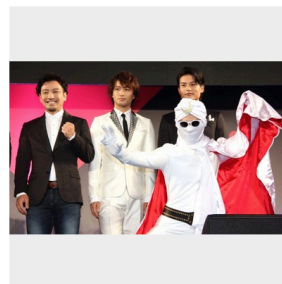


[『月光仮面』舞台化決定で来年7月から上演 オリジナルキャラ「新月仮面」も登場](#)

『月光仮面』舞台化決定で来年7月から上演 オリジナルキャラ「新月仮面」も登場

2018/11/30(金) 15:43配信

 ORICON NEWS



特撮テレビヒーローの元祖と呼ばれる『月光仮面』（原作：川内康範）が『月光仮面（仮題）』として舞台化されることが決定し、来年7月25日～8月12日に東京・新宿村LIVEで上演されることが30日、千葉・幕張メッセで開催中の『東京コミコン2018』で発表された。

『月光仮面』舞台化決定 発表会
に出席した(左から)樋口夢祈、
鷺尾修斗、伊阪達也 (C) ORICON
News inc.

【写真】舞台化される月光仮面

テレビで放送されてから今年で60年周年を迎えたことを記念したもので、演劇集団GEKIIKEが手がける。月光仮面役を超体感ステージ『キャプテン翼』などに出演している鷺尾修斗、W主演となる月光仮面のライバルで舞台オリジナルキャラクター・新月仮面役を舞台『刀剣乱舞』『十二大戦』に出演している伊阪達也が務める。また、演出・出演を舞台『銀河英雄伝説』アンドリュー・フォーク役、ドラマ『戦国BASAR MOONLIGHT PARTY』明智光秀役で知られる樋口夢祈、脚本を木村純子氏といったおなじみのタッグで、衣装をヨシダミホ氏、ヘアメイクを西村裕司氏が担当する。

日本の観劇人口は約1割

全国の25歳以上演芸・演劇・舞踏鑑賞人口は1368万6000人で、25歳以上人口100人あたり13.83人。鑑賞人口が最も多いのは東京都で25歳以上人口100人あたり21.18人。2位は京都府で16.32人。3位以下は千葉県(15.79人)、大阪府(15.74人)、奈良県(15.73人)の順。一方、最も鑑賞人口が少ないのは高知県で25歳以上人口100人あたり8.12人。これに青森県(8.19人)、鹿児島県(9.30人)、愛媛県(9.36人)、山口県(9.61人)と続いている。

引用：都道府県別統計とランキングで見る県民性

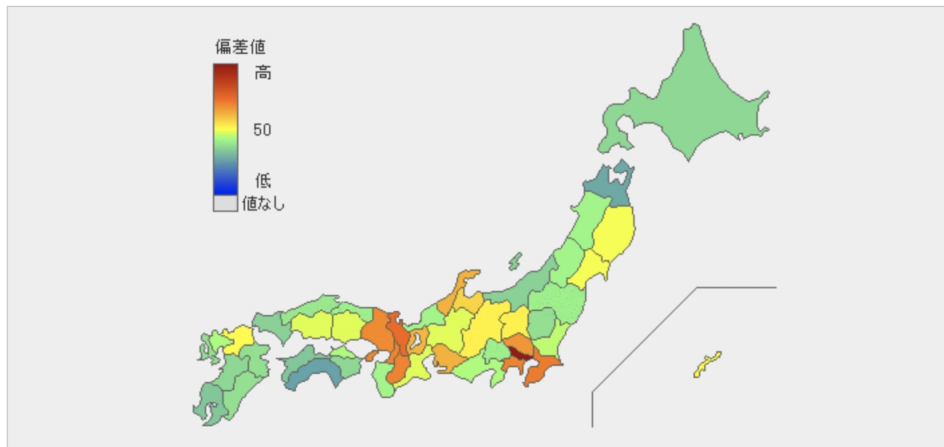
データ出典：社会生活基本調査 2016

都道府県別25歳以上演芸・演劇・舞踏鑑賞人口

公開日:2018-5-30 | 最終更新日: 2018-5-30

カテゴリ: [趣味・行動](#)

[シェア](#) [いいね!](#) [ツイート](#) [B!ブックマーク](#)

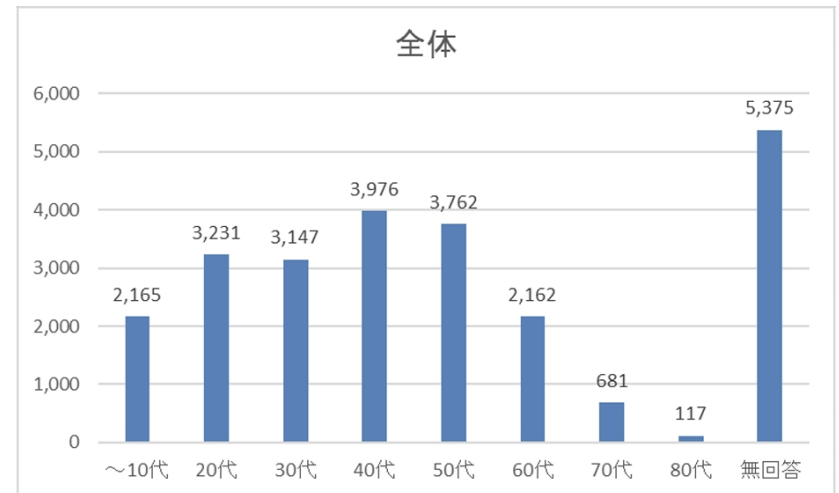


高齢化による観劇人口の減少

現在の観劇人口の中心となるのは40代・50代だが、60代・70代となるとその数は減少している。
その主な理由としては「肉体の衰え」が挙げられる。

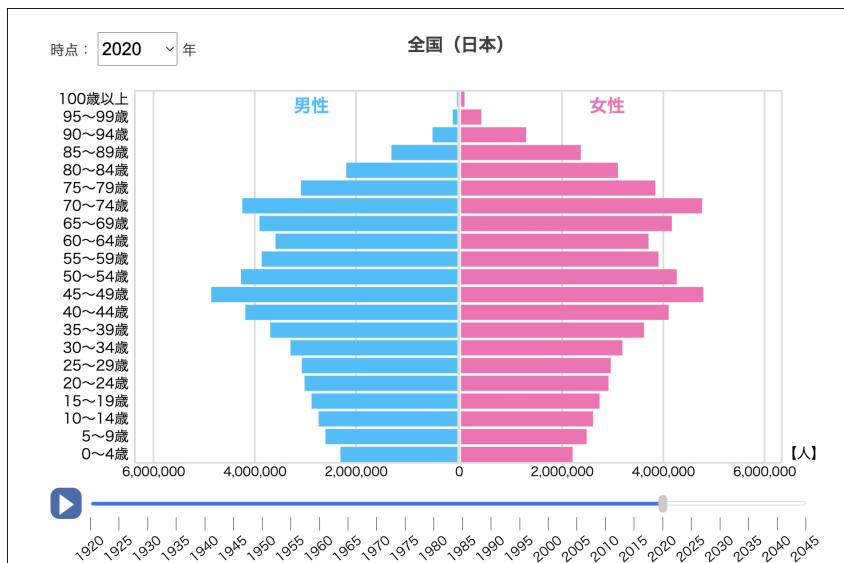
- ・劇場まで行くのが大変になる
- ・バリアフリー非対応の劇場には行けなくなる
- ・長時間の観劇に耐えられなくなる 等

日本芸術文化振興会の鑑賞行動データ(2018年) から



←日本の人口年代別

現在の40代・50代が、上記のような理由から観劇離れをしていくであろう10～15年後には、現在よりもっと観劇人口は減少していることになる。



演劇を観たことがない理由とは

内閣府が平成15年に行った「文化に関する世論調査」の結果

ホール等で直接鑑賞しなかった理由

この1年間に、プロの公演や作品をホール、会館、劇場、映画館、美術館・博物館などで直接、「鑑賞したものはなし」と答えた者（1,022人）に、鑑賞しなかった理由は何か聞いたところ、「時間がなかなかとれないから」を挙げた者の割合が47.1%と最も高く、以下、「あまり関心がないから」（39.5%）、「近くで公演や展覧会などをやっていないから」（13.0%）、「入場料・交通費など費用がかかり過ぎるから」（8.8%）などの順となっている。（複数回答、上位4項目）

都市規模別に見ると、「近くで公演や展覧会などをやっていないから」を挙げた者の割合は小都市、町村で高くなっている。

性別に見ると、「時間がなかなかとれないから」、「近くで公演や展覧会などをやっていないから」を挙げた者の割合は女性で、「あまり関心がないから」を挙げた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

引用：内閣府「文化に関する世論調査」平成15年

現在はコロナ禍もあり、県を跨いでの移動を控えている人も多く、近くで公演がやっていない地方在住者は、観劇の機会がない状況に拍車がかかってしまっている。

地方公演の活性化を目指す

「近くでやっていないから」を減らし、劇場に足を運んで貰える機会作りを

演劇界の課題でもある東京一極集中。今まで一度も舞台を観たことがない地方在住者による「近くでやっているなら観たい」という声はとても多いです。

遠くない未来に起こるであろう観劇人口減少を少しでも食い止めるべく、「観てみたい」と思ってくれているところに演劇を届ける活動が必要だと考えます。

文化芸術に触れ合う機会の少ない地方の子供たちにも「舞台って面白い」と知って欲しい、そのためには舞台芸術が身近に存在している必要があります。

GEKIIKEは、2015年に「最も鑑賞人口が少ない高知県」にて舞台公演を行い、2公演全て満席にしました。

高知公演では、新聞を見て当日券で足を運んでくれた方の多さや、年配のお客様の多さから、「近くでやっているなら観たい」という思いを実感しています。

その実体験をもとに、

全国で舞台公演を実施できるよう「GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT」を立ち上げ、全国各地に「GEKIIKE」のチームを発足し、そのエリアの「身近な演劇」になるため、拠点を構え舞台公演を実施していきます。

GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT

チーム概要

チーム編成

GEKIIKE TOKYO

- ・東京を主な拠点として活動。
- ・GEKIIKE東京公演や東京でのイベント等に出演。（他地域の催しに出演することもある）
- ・2023年春に舞台公演を予定。9月30日～10月2日に石垣市民会館中ホールの舞台公演に出演の可能性有り。

GEKIIKE ISHIGAKI

- ・日本最南端の演劇集団。石垣島を主な拠点として活動。
- ・石垣島公演や石垣でのイベント等に出演。（他地域の催しに出演することもある）
- ・石垣島の名産品、観光地の紹介やPR、地域の企業の広告などの広報活動。
- ・2022年9月30日～10月2日に石垣市民会館中ホールの舞台公演に出演出来る人。

GEKIIKE OSAKA

GEKIIKE FUKUOKA

- ・メンバー募集時期は未定。

GEKIIKE JAPAN

- ・全地域の舞台公演に参加、出演。（イベントや催しには参加しない場合もある）
- ・JAPANのメンバーは「演出+出演」「振付+出演」等、演出部と役者を兼ねて活動する人のみとなります。

募集要項(全チーム共通)

- 心身共に健康である13歳（中学生）～35歳くらいまでの男性。※1
- 未経験者可。精力的にワークショップやレッスンに参加し、自主練を怠らない方。※2
- 事務所に所属している方は所属事務所の許可を得られる方。
（スケジュールの調整やギャラの支払い先については応相談）
- 意欲があり、積極的に活動ができる方。
- 稽古、本番のスケジュールを調整し参加できる方。
- 稽古、本番期間にその地域に滞在できる方。
- 歌、ダンス、殺陣・アクション等、未経験でも積極的に挑戦出来る方。
- 宣伝活動や配信、トークイベント、ファンミーティング、ファンツアーなど、舞台公演以外の活動にも参加出来る方。
- サインやお渡し会などの、ファンの皆さんと交流をはかる催し物に参加できる方。
- 仕込みやバラシ、衣裳や小道具の管理などの業務を手伝うことに抵抗のない方。
- メンバーである自覚を持ち、私生活も含め真面目に活動出来る方。

※1 未成年者は保護者の同意が必要。

※2 JAPANのメンバーは経験者のみ。二次オーディションはございません。

活動条件面(全チーム共通)

- ノルマなし。本番出演料、グッズロイヤリティあり。
- 他地域の公演や催しに参加する場合の交通費と宿泊費は運営が負担いたします。
(例：TOKYOメンバーが石垣島公演に出演する場合の飛行機代、宿泊代。空港までの移動、宿から稽古場、劇場までの移動は自己負担)
- 所属地域の公演に出演する際の移動、交通費と宿泊費は自己負担となります。
(例：ISHIGAKIメンバーが石垣島公演に出演する際の交通費、駐車場代、ガソリン代、宿泊代等)
- オーディション参加費、所属費等、メンバーになるにあたり費用はかかりません。
- オーディション会場への交通費、宿泊費は自己負担となります。
- 出演料のお支払いは、公演・催しが終了した月末締め翌月末払いを基本とします。
ご本人へお支払いの方：源泉所得税を引いてのお支払い（銀行振込）
所属事務所へお支払いの方：源泉所得税を引かずにお支払い（銀行振込）
- 宣伝、広報のための取材、及びSNS等、出演料のない活動もございます。ワークショップやレッスン、稽古参加に出演料はございません。

応募方法・概要

一次オーディション（書類）

エントリー受付期間：2022年5月27日～6月19日23:59まで

エントリー方法：エントリーフォームより申し込みをお願いいたします。

エントリーフォーム：<https://pro.form-mailer.jp/lp/cf6816a5257093>

※随時結果をお送りいたしますので、なるべく早めのエントリーをお願いいたします。



二次オーディション（実技）

●GEKIIKE TOKYOメンバー実技オーディション：2022年6月22日(水)13:00～21:00の間

場所：東京都下(通過者様にご案内いたします)

●GEKIIKE ISHIGAKIメンバー実技オーディション：2022年6月25日(土)13:00～19:00の間

場所：石垣市某所(通過者様にご案内いたします)

※実技オーディションは約30分～1時間程を予定しております。

※上記の日程が合わない方はご相談ください。

※当日は室内履きと動きやすい服装をご持参ください。

※特技披露で使用する道具がありましたらそちらもご持参ください。

GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT

プレビュー公演

GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT プレビュー公演

「タイトル非公開」（GEKIIKE作品の再演）

石垣市民会館 中ホール

2022年9月30日(金)～10月2日(日) 全5公演

演出：樋口夢祈 作：木村純子

稽古期間：2022年9月上旬～／9月28日仕込み／9月29日場当たり

稽古場所：石垣島内の稽古場にて実施予定

ビジュアル撮影：東京1日+石垣1日、7月中旬～下旬予定

情報解禁：6月10日予定

チケット発売日：7月下旬予定

製作・スタッフ

GEKIIKE ALL JAPAN PROJECT

製作 スタービートエンターテイメント合同会社

プロデューサー 木村純子

プレビュー公演「宵闇に咲く雨」（石垣公演）

演出 樋口夢祈

脚本 木村純子

殺陣

舞台監督

音響 HARLY

照明プラン・オペレーター 新里翼（マーキュリー）

照明機材 Office One Step

衣裳

ヘアメイク

撮影

当日運営 潮田塁

制作 木村朋絵

企画・製作 スタービートエンターテイメント合同会社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-5-16 渋谷三丁目スクエアビル2階

TEL 03-6868-4762 FAX 03-6868-3966 MAIL info@starbeat.jp

演出家プロフィール

樋口夢祈 HIGUCHI YUKI

1984年12月22日生まれ

15歳から演劇を始め、同年千葉県演劇大会にて新人賞を受賞。

高校卒業と同時にプロの道へ。俳優としての代表作に舞台「ローズガンズデイズ」アルフレッド赤城役、舞台「STORM LOVER」西水司役、舞台「銀河英雄伝説 自由惑星同盟篇」アンドリュー・フォーク役、ドラマ「戦国BASARA MOONLIGHT PARTY」明智光秀役、映画「ガチバンスプレマシー1・2」等がある。

演出家としては2010年より商業演劇の演出を手がけ始め、

自らの経験や知識を活かし、エンターテインメント性を重視した華やかな作品から、役者の芝居力を引き出したコアな作品まで、幅広くその作品のテーマに沿った演出をする。

2019年1月には乙女ゲーム原作の舞台「忍び、恋うつつ」につづき、5月には大人気乙女ゲーム「Collar×Malice」の舞台化（シアターサンモール・松下IMPホール）の演出、2019年8月にはテレビ放送60周年を記念した「月光仮面」の舞台化の演出を手がける。

【演出作品】

「リーマン☆ロック」 (2010)

「ライラック」 (2011)

「君に降りそそぐ、天上の花」 (2012)

「空翔ける雷鳴の夜に」 (2013)

「宵闇に咲く雨」 (2014)

「空翔ける雷鳴の夜に」 (再演) (2015)

「月下燦然ノ星-帝都綺譚-」 (2015)

「あまつぎつねの鬼灯」 (2016)

「漆黒ノ戦花」 (2018)

「光芒のマスカレード -月光仮面異聞-」 (2019)

「HIT LIST」 (2020) 以上 GEKIIIKE

「アルビノ」 (2015)

「JudgementDay」 (2016)

「NoLimit」 (2016)

「THE LAST SONG」 (2017)

「NoLimit-Replays-」 (2017)

「DOUBT」 (2020) 以上 Asterism✱

共同演出「ポセイダンの孫とYシャツと私」 (2014)



脚本・プロデューサー プロフィール

木村純子 KIMURA JUNKO

1982年8月15日生まれ

スタービートエンターテイメント合同会社 代表。脚本家、プロデューサー。

2010年同社設立後、俳優、タレントのマネージメントを中心に、舞台制作、映画制作、アートディレクションを手がける。

2011年からは演劇集団GEEKIIEの脚本を書き始め、年1〜2本新作を世に送り出している。

GEEKIIEではエンタメを意識した華やかなものを、Asterism✱ではコアで哲学的な作品を執筆。

メッセージ性の強いテーマを押し付けることなく「観客に預けるように」表現することをモットーとしている。

2019年5月には大人気乙女ゲーム「Collar×Malice」の舞台化脚本を担当するほか（シアターサンモール・松下IMPホール）、テレビ放送60周年を記念した「月光仮面」の舞台化脚本、プロデュースを担当する。

【脚本・プロデュース作品】

❖舞台

「ライラック」 (2011)

「君に降りそぐ、天上の花」 (2012)

「空翔ける雷鳴の夜に」 (2013)

「宵闇に咲く雨」 (2014)

「空翔ける雷鳴の夜に」 (再演) (2015)

「月下燦然ノ星-帝都綺譚-」 (2015)

「あまつぎつねの鬼灯」 (2016)

「漆黒ノ戦花」 (2018)

「光芒のマスカレード -月光仮面異聞-」 (2019)

「HIT LIST」 (2020) 以上 GEEKIIE

「アルビノ」 (2015)

「JudgementDay」 (2016)

「NoLimit」 (2016)

「THE LAST SONG」 (2017)

「NoLimit-Replays-」 (2017)

「DOUBT」 (2020)

以上 Asterism✱

❖映画

「月下燦然ノ星-帝都綺譚-」 (2015) 脚本・監督

「あまつぎつねの鬼灯」 (2020)